

天神地区における子連れ家族の行動特性に関する研究

福岡大学工学部 学生会員 ○ 古閑 勇貴 福岡大学工学部 正会員 辰巳 浩
福岡大学工学部 正会員 吉城 秀治 福岡大学工学部 正会員 堤 香代子

1. はじめに

誰もが楽しく快適に回遊できる中心市街地の創出は、都心の活性化に向けて重要な検討事項である。とりわけ少子化対策が喫緊の課題となっている我が国においては、子連れであっても都心に訪れやすい交通環境を整備していくとともに、都心に訪れてからも回遊しやすい中心市街地を整備していく必要があるものと考えられる。

そこで、学術的にも子連れ家族や子どもを対象とした研究が行われつつあり、中でも近年では、幼少期における都心での楽しい思い出が将来的に都心を指向させる上で重要であるとの研究成果が得られている¹⁾。すなわち、都心の活性化に向けては子連れ家族や子ども自身が「楽しく」回遊できる環境を整備していくことが重要であると考えられる。しかしながら、子連れ家族を対象とした先行研究²⁾をはじめ既存研究において、子どもを楽しく回遊させるための知見については十分には明らかにされていない。

そこで本研究では、福岡市天神地区を対象として、来街者に対してアンケート調査を実施し、回遊時における子どもの様子と回遊特性の関係を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要と回答者の属性について

配布日は平成 27 年 10 月 3 日(土)、4 日(日)、10 日(土)で、配布部数は各地点 1,000 部(1 地点のみ 800 部)の計 3,800 部である。回収部数は 1,129 部で回収率は 29.7%であった。調査概要と調査項目を表 1 に示す。

調査対象者の個人属性は、男性18.9%、女性78.1%で、年齢は20歳代以下8.1%、30歳代22.0%、40歳代23.9%、50歳代17.9%、60歳代15.1%、70歳以上12.8%であった。また、調査日に天神地区に子供を連れて来街したと回答したサンプルは1,129部中348部であり、以下このサンプルを子連れ来街者として扱う。

表1 調査概要と調査項目

調査概要	配布日	平成 27 年 10 月 3 日(土)、4 日(日)、10 日(土)
	配布・回収方法	無作為配布、後日郵送回収
	配布場所	福岡市天神地区(イムズ地下,ライオン広場,エルガー前,地下街)
	配布部数	各地点 1,000 部(ライオン広場のみ 800 部) 合計 3,800 部
	回収部数、回収率	1,129 部、29.7%
調査内容	個人属性	性別、年齢、職業、子供の有無、来街頻度等
	天神地区での回遊行動	調査日の交通手段、同行者の属性と人数、到着時刻と出た時刻、回遊行動とその目的、消費金額、天神地区での満足度、子供の様子
	天神地区以外で子供とよく行く場所	子供を連れて行く場所、そこを選ぶ理由、交通手段

3. 子連れ来街者の行動特性について

3-1. 一般来街者と比較した子連れ来街者の特性

本研究では天神地区において訪れた場所、天神地区での滞在時間及び消費金額について尋ねている。その結果、訪れた場所の数(回遊数)は平均して子連れ来街者、一般来街者ともに約 3 ヶ所であった。滞在時間は子連れ来街者が 3 時間 33 分、一般来街者が 3 時間 55 分であり、消費金額については子連れ来街者の平均が 12,441 円、一般来街者の平均が 12,229 円であり、大きな差はみられていない。

3-2. 回遊時の子どもの様子に着目したサンプル分類

続いて、子どもを楽しく回遊させるための知見を得ることを目的として回遊中の子どもの様子に着目する。まず、前節において回遊数の平均が約 3 ヶ所であったことを考慮して、丁度 3 ヶ所の回遊のあった子連れ来街者のサンプルを抽出した。そして、アンケート調査では回遊場所それぞれでの子どもの様子を“大変喜んでいた”から“大変嫌がっていた”までの 5 段階で尋ねており、この回答を基に、3 ヶ所すべて喜んでいと回答したグループ、1~2 ヶ所は喜んでいと回答したグループ、3 ヶ所とも喜んでいなかったと回答したグループに分類した。分類結果を図 1 に示す。図より、最も多いのが 1~2 ヶ所は喜んでいたグループであり、3 ヶ所すべて喜んでいと3 ヶ所とも喜んでいなかったグループの割合は同程度となっている。

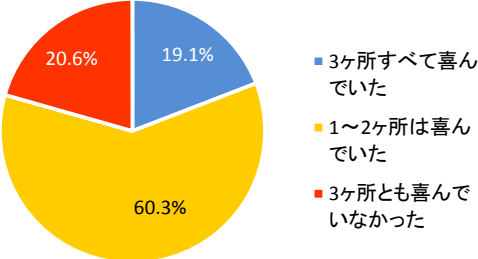


図 1 回遊中の子どもの様子

3-3. 子どもの様子と回遊の関係

本節では、前節の分類と回遊の関係について明らかにする。まず、前項における子どもの様子に基づくグループ別に回遊目的を訪問順別に整理した。なお、回遊先を訪れた目的は複数回答形式で尋ねており、図中の値は選択率となっている。図より、「3 ヶ所とも喜んでいなかった」グループの特徴としては、3 ヶ所目の買物目的の割合が高くなっており、休憩目的の割合が低い。また、全回遊を通じて食事を目的とした回遊割合が低いことも特徴となっている。

一方で、「3ヶ所すべて喜んでいて」あるいは「1～2ヶ所は喜んでいて」グループの特徴としては、回遊中の食事の割合が比較的高くなっており、また回遊が進むにつれて休憩目的の回遊割合が高くなっている。買物中心の回遊ではなく、食事を回遊に含めることや回遊の後半には休憩を含めることが重要であるものと考えられる。

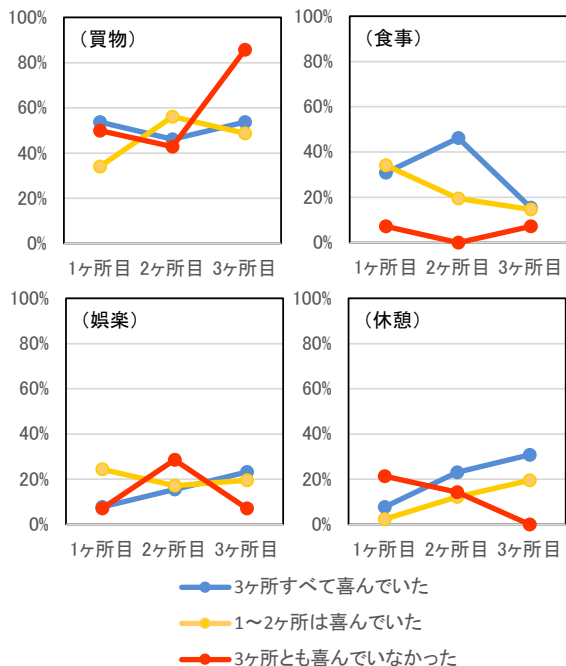


図2 回遊順序別の訪問目的

そして、グループ別に回遊中にどの程度子どものための回遊が含まれていたのかについて集計した結果を図3に示す。子どもが喜んでいてグループであるほど、子どものために訪れている場所が多い結果となっている。特に「3ヶ所とも喜んでいなかった」グループには“3ヶ所とも子どものための訪問ではない”との回答割合が高くなっており、親の用事中心の回遊であればあるほど回遊を楽しめない傾向にある。

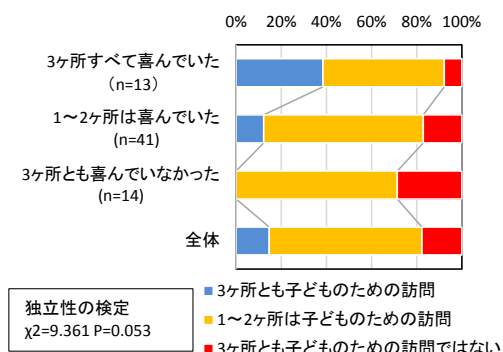


図3 子どものための回遊回数と回遊中の子どもの様子

そして最後に、回遊全体を通じての「回答者本人」の満足度について尋ねた結果を図4に示す。図より、全体的に満足との回答割合が高く、全体では約9割を占めている。ここで回遊中の子どもの様子別の満足度についてみると、回遊中に子どもが喜んでいて子連れ来街者の方が“満

足”の割合が特に高くなっていることがわかる。子どもを楽しく回遊させられたことが、親自身の満足度の向上にも重要であるといえる。

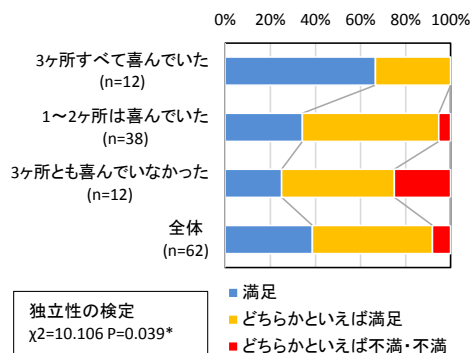


図4 回答者本人の満足度と回遊中の子どもの様子

4. 子連れの回遊時における心配・不安なこと

前章では子連れの回遊時の楽しさに着目した分析を行ってきたが、最後に本章では回遊時に心配・不安なことについて整理する。自由回答形式で尋ねており、カテゴリ別に整理した結果を図5に示す。図より、自転車や車に対する不安や移動時の不便さ、人の多さをはじめとして、交通面に対する不安が多くあげられていることがわかる。

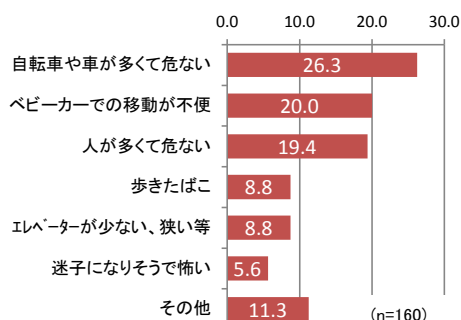


図5 子連れの回遊時に心配・不安なこと

5. まとめ

本研究では、回遊時の子どもの様子に着目し、回遊特性との関係について検討した。天神地区を対象としたアンケート調査結果から、子どもを喜ばせながら回遊できているグループは、買物中心の回遊ではなく、食事を回遊に含めることや回遊の後半には休憩を含めている傾向にあった。また、子どもの用事中心の回遊であるほど子どもを楽しく回遊させることができ、子どもを楽しく回遊させることができたことは、親自身の満足度の向上にも寄与してくることが明らかになった。今後はさらに具体的な訪問場所や移動ルート等との関係についても検討を進めたい。

参考文献

- 1) 吉城ら: 幼少期における都心の思い出と現在の都心指向の関係性に関する研究, 土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.71, No.5(土木計画学研究・論文集第32巻), pp.181-190, 2015.
- 2) 辰巳ら: 都心での子連れ来街者の回遊特性に関する研究～福岡市天神地区を対象として～, 土木計画学研究・講演集, Vol.52, 2015.